

当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

資料8

No.	医療機関名	将来目指す医療機能の方向性 (平成30年5月16日付け医第05160001号「診療報酬改定動向等を踏まえた今後の医療機能のあり方等について(照会)」の結果より)		転換等の内容	転換等の時期
1	日本赤十字社 和歌山医療センター	A	救急医療を含めて高度急性期機能 や急性期機能を担う医療機関	がん医療提供体制の充実を図るため、緩和ケア病棟（20床）を稼働	平成30年10月以降
2	堀口記念病院	A	救急医療を含めて高度急性期機能 や急性期機能を担う医療機関	整形外科等の救急受入体制の充実を図るため、 ・現在休棟中の急性期病棟（30床）を地域包括ケア病棟（回復期）にて稼働 ・非稼働病床（急性期10床）を地域包括ケア入院医療管理料（室料単位）にて稼働	平成30年11月以降
3	中谷病院	B	在宅医療の後方支援の役割を担う 「地域密着型協力病院」等	医療療養病床の一部（58床中の23床）を回復期リハビリテーション病床に転換	平成30年12月以降
4	上山病院	B	在宅医療の後方支援の役割を担う 「地域密着型協力病院」等	協議済み内容の一部変更に係る報告 【協議済み】急性期病床32床のうち、20床を地域包括ケア病床に転換し、4床を廃止 (H29.2.9 第2回地域医療構想調整会議にて了解) 【今回報告】転換病床数及び廃止病床数の増（転換20床→26床、廃止4床→6床） あわせて、2病棟体制から1病棟体制に移行	平成30年9月以降

病床機能の転換等について〔和歌山保健医療圏構想区域 協議の場〕

医療機関名 日本赤十字社和歌山医療センター

現在の病床機能【概要】 <平成30年7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期	16	救命救急入院料3、救命救急入院料4、特定集中治療室管理料4、新生児特定集中治療室管理料2、新生児治療回復室入院医療管理料、小児入院医療管理料2、急性期一般入院料1	614	81.7%
急性期	3	急性期一般入院料1	138	93.5%
分類なし	3		113	0.0%
計	22	—	865	72.9%
(備考)				

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日までの病床稼働率 (H29病床機能の現状等アンケートより転記)

現在の病床機能【詳細】				
<入院患者の状況>				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
新規入院患者数	19,302人	19,912人	20,560人	
入院延患者数	234,388人	232,388人	229,562人	
平均在院日数	12.6日	11.9日	11.2日	
※平均在院日数の短縮により延入院患者数は減少しているものの、新規入院患者数は年々増加している。				
<救急医療の状況>				
集中治療室 30床 救命救急病室 44床				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
救急患者数	24,941人	23,665人	23,185人	
内入院数	6,254人	6,573人	6,937人	
救急車搬送数	7,878人	8,146人	7,921人	
※平成27年度より時間外選定療養費の徴収を開始し、救急患者数は減少したが、救急入院数はむしろ増加している。				
なお、高度専門医療の状況、各種疾病への対応状況等については、公的医療機関等2025プランを参照。				

転換の予定　　＜平成３０年１０月以降＞				
機能区分	病棟数	入院基本料　又は　特定入院料	病床数	
高度急性期	17	救命救急入院料3、救命救急入院料4、 特定集中治療室管理料4、新生児特定集中治療室管理料2、新生児治療回復室入院医療管理料、小児入院医療管理料2、急性期一般入院料1、緩和ケア病棟入院料2	634	
急性期	3	急性期一般入院料1	138	
分類なし	2		93	
計	22	—	865	
(転換の概要)				
休棟中の3病棟のうち、1病棟20床において緩和ケア病棟入院料2を取得予定。				

転換後における病院のあり方	
<高度で専門的な医療の提供> 当センターは引き続き高度急性期・急性期機能を継続し、より専門的な医療を提供する。内視鏡手術や放射線治療をはじめとする高度で専門的な医療の更なる充実を図るとともに、生活習慣病や周産期・小児医療を含む、全ての標準的な医療に対応し、全県的に必要とされる医療を提供する。	
<救急医療体制の継続> 引き続き1次から3次まであらゆる救急患者に対応すべく、24時間体制で患者の受入れを行う。全科参加型救急として、専門的な救急診療体制を継続する。	
<がん診療システムの充実> がんの発見（検診）、診断、治療、治療中の救急体制、そして社会復帰への支援あるいは終末期の緩和医療について、途切れないより専門的な医療を提供する。 患者個々の背景や人間関係を理解し、それぞれ抱えている問題に対して全人的（身体的、精神・心理的、社会的）にアプローチするがん診療システムを構築していく。また、緩和ケア病棟を開設し、終末期医療の充実を図る。 緩和ケア病棟 20床 分類なし→高度急性期	
<災害救護体制の強化> 将来予想される南海トラフ巨大地震に対して、院内の災害対策訓練、自衛隊やDMATとの合同訓練を引き続き行っていく。また、地域への災害救護体制も従前どおり救護班を複数班編成し訓練を継続していく。	
<地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等> <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 指定済み	

病床機能の転換等について〔和歌山保健医療圏構想区域 協議の場〕

医療機関名 医療法人やすだ堀口記念病院

現在の病床機能【概要】 <平成30年7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
急性期	2	急性期一般入院基本料7 (90床中50床、残り40床は休床中)	90	77.4%
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料3	60	79.0%
計		—		78.6%
(備考)				

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日までの病床稼働率 (H29病床機能の現状等アンケートより転記)

転換の予定				＜平成30年11月以降＞	
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数		
急性期 (回復期)	2	急性期一般入院基本料7 (うち地域包括ケア入院医療管理料2)	90 (40)		
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料3	60		
計		－			
(転換の概要)					
急性期機能を維持すると同時に、地域包括ケア病床の開床により、回復期患者の受入体制についても充実を図る。					

現在の病床機能【詳細】
<p><患者の状況></p> <p>○急性期</p> <ul style="list-style-type: none">・整形外科、内科の急性期疾患患者を受け入れる・整形外科、内科の患者が全体に占める割合は75% (平成30年7月)月入院受入患者数・・・49名 (平成30年7月)救急搬送受入件数・・・102件 (平成30年7月) <p>○回復期リハビリテーション病棟</p> <ul style="list-style-type: none">入院患者の内訳・・・整形 (67%)、脳外科 (33%)一般病棟からの転棟患者・・・5月16名、6月16名、7月5名 <p><リハビリの実施状況></p> <ul style="list-style-type: none">・回復期リハビリテーション病棟の入院患者を中心にリハビリ提供。・体制→理学療法士31名、作業療法士5名、言語聴覚士3名・リハビリの実施状況回復期リハビリ病棟 約9,600単位/月一般病棟 約2,600単位/月

転換後における病院のあり方
<p><地域医療を担う役割></p> <ul style="list-style-type: none">・救急受入件数は月間約90件程度で推移しており、整形外科、内科、外科を中心とした急性期病院の機能を今後も充実する。・地域包括ケア病床の開床により高度急性期病院のポストアキュート機能により、入院患者の受入体制の充実を図るとともに、在宅支援をすすめるうえでクリニックや介護施設との連携を強化し、サブアキュート機能を高める。 <p><地域医療機関との連携></p> <ul style="list-style-type: none">・退院患者の往診や在宅患者の急変時に受入要請に応じることで近隣クリニックとの連携強化を図る。・高度健診機器を保有しないクリニックに対する検診受託を高める。 <p><リハビリテーション></p> <ul style="list-style-type: none">・回復リハビリテーション病棟の入院患者を中心に平均6.6単位のリハビリを提供。約40名のセラピストによるリハビリの提供を維持する。・在宅支援をすすめるうえで今後もセラピストの充実に努める。 <p><地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等></p> <p><input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 指定済み</p>

病床機能の転換等について〔和歌山保健医療圏構想区域 協議の場〕

医療機関名 医療法人裕紫会 中谷病院

現在の病床機能【概要】				
<平成30年8月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料5	42	95.0%
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2 (35床) 地域包括ケア病棟入院医療管理料2 (18床)	53	83.7%
慢性期	2	障害者施設等一般病棟13:1 (42床) 医療療養病棟基本入院料1 (58床)	100	98.4%
計	4	—	195	
(備考)				

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日までの病床稼働率 (H29病床機能の現状等アンケートより転記)

現在の病床機能【詳細】
①救急の受入件数 平成29年4月1日～平成30年3月31日 受入件数581件
②手術件数 平成29年4月1日～平成30年3月31日 0件
③入院患者の状況 (主な疾患等) ○急性期一般入院料5 (42床) H29年実績稼働率93.1% 平均年齢80.8歳 救急搬送及び高度急性期病院からの受入、特養や高齢者施設からの受入等、急性期病棟として幅広く患者の受入を行っています。
○回復期リハビリテーション病棟入院料2 (35床) H29年実績稼働率91.9% 平均年齢77.8歳 脳疾患、骨折後のリハビリを実施し在宅復帰を目標として患者受入を行っています。患者様の病状に合わせて365日のリハビリを実施しています。
○地域包括ケア病棟入院医療管理料2 (18床) H29年実績稼働率99.1% 平均年齢83.1歳 包括ケア病棟としての役割であるポストアキュート、サブアキュートとしての機能を果たし在宅復帰を目標に受入を行っています。
○障害者施設等一般病棟13:1 (42床) H29年実績稼働率93.8% 平均年齢76.6歳 難病、骨損、頸損等の長期療養が必要な患者の受入を行い、在宅復帰を目指しリハビリを実施します。
○医療療養病棟基本入院料1 (58床) H29年実績稼働率90.4% 平均年齢84.7歳 急性期の治療を終えても引き続き医療提供の必要度が高く、病院での療養が継続的に必要な患者受入れを行っています。
④在宅医療の状況 当院では在宅療養後方支援病院として在宅担当医が在宅での治療が困難と判断した在宅患者様に対して24時間体制で入院受入を行っています。
⑤リハビリの実施状況 医師、看護師、PT、OT、STの多職種でチームを編成し、連携しながらリハビリ計画を立て入院時より退院後の在宅生活を視野に入れ、機能回復・維持に努めています。
⑥他の医療機関との連携の状況 和歌山圏域における公的病院からの紹介数 302件 ※主な紹介目的 急性期医療・回復期リハビリ・専門的リハビリ・看取り等

転換の予定				
<平成30年12月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料5	42	
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2 (58床) 地域包括ケア病棟入院医療管理料2 (18床)	76	
慢性期	2	障害者施設等一般病棟13:1 (42床) 医療療養病棟基本入院料1 (35床)	77	
計	4	—	195	
(転換の概要) ・慢性期 (医療療養病棟基本入院料1) を23床減少 ・回復期 (回復期リハビリテーション病棟入院料2) を23床増床				

転換後における病院のあり方
①病床機能転換計画を一部変更 (病棟再編) する理由 高度急性期病院、近隣のクリニック、在宅、介護事業施設等からの患者受入増に加え、今後の医療圏域全体の回復期機能需要の増加、特にリハビリ目的に対応する為、回復期リハビリテーション病棟の増床が必要と考えております。
②今後、地域医療において担っていく役割 当院理念である「地域と共に生きる」のもと、かかりつけ医の先生からの要請に応じ、急変等に在宅療養患者様を受け入れる後方支援機能を担う「地域密着型協力病院」としての役割を果たします。 当院では、今後においても疾患の治療だけではなく、在宅生活を意識したリハビリテーションの実践、退院支援看護師・社会福祉士の配置によるきめ細やかな入退支援・調整等により患者様の早期在宅復帰の実現。および、緊急往診を含む24時間対応の訪問診療や訪問看護の提供による在宅生活の支援に取り組んでいきます。今後も地域の関係機関の皆様と協力し、地域を支える医療を充実・発展させていきたいと考えています。
③病棟再編後における急性期患者、回復期患者、慢性期患者への対応 和歌山医療圏の2025年を見据えた医療機能別の病床の変化では、高度急性期・急性期ともに過剰 (47%減)、回復期不足 (83%増)、慢性期過剰 (40%減) となっています。当院においても地域ニーズへの対応と2025年必要量を実現する為、現在提供している慢性期医療のうち病院での対応が必要なもの (障害者病棟) 以外を在宅や近隣の皆様と連携すること、そして、慢性期病床機能を回復期機能病床に転換することで地域ニーズに対応しながら、地域密着型協力病院としての機能を最大限発揮できるよう進めていく予定です。
<地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等> <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 指定済み

病床機能の転換等について〔和歌山保健医療圏構想区域 協議の場〕

医療機関名 医療法人弘智会 上山病院

現在の病床機能【概要】 <平成30年8月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料 6 (うち地域包括ケア入院医療管理料 2)	32 (9)	65.0% (63.0%)
回復期				
慢性期	1	療養病棟入院基本料 1	30	83.0%
計	2	—	62	
(備考) 急性期一般入院料6(32床)の中に地域包括ケア入院医療管理料(9床)を含む一般病棟と、療養病棟入院基本料(30床)のケアミックス。				



転換の予定　　＜平成３０年９月以降＞				
機能区分	病棟数	入院基本料　又は　特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期				
回復期	1	療養病棟入院基本料 1 （うち地域包括ケア入院医療管理料 2）	56 (26)	
慢性期				
計	1	－	56	
(転換の概要)				
一般病棟32床のうち26床で地域包括ケア入院医療管理料を算定し、残る6床を削減。 その後、一般病棟を療養病棟に統合する。（総病床数：56床）				



現在の病床機能【詳細】
<p><当院の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 当院は、32床の一般病棟（急性期（9床で地域包括ケア入院医療管理料を算定））と、30床の療養病棟（慢性期）を有するケアミックスの病院である。 現在、ポストアキュート及びサブアキュートの強化に向けた体制を構築中。 <p><入院患者の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者の住所地については、病院周辺に在住の方が大部分を占めている。 入院前及び退院後の場所については、次のとおり。 入院前：自宅からの入院及び医大、日赤、海南医療センターからの転院が大半。 退院後：自宅への退院が多い。 <p><在宅医療関係></p> <ul style="list-style-type: none"> 退院後の医療提供として訪問診療を実施。

転換後における病院のあり方
<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟において地域包括ケア入院医療管理料を算定する病床を、当初計画より6床増やし、26床とする。 地域医療構想における2025年の必要病床数に鑑み、一般病棟において6床を削減する（32床→26床）。 サブアキュートを強化する上で、夜間帯に急患対応の看護師を配置する。このことに伴い、病棟体制を見直し、一般病棟（26床）を療養病棟（30床）に統合する（統合後の総病床数：56床）。 病棟統合後の医療機能区分については、入院患者の実態に鑑み、回復期に分類する。
<p><地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 指定済み</p>